

“演奏するのが楽しくなるのが最高の楽器。アッシュダウンは、まさにそういうアンプなんだ”



▲ニック・ファイブ (b/ジャミロクワイ)

ボクが使っているアンプは、店頭にあるものとまったく同じものなんだ

—アッシュダウンのアンプと出会ったのは、いつ頃のことですか？

ニック：ジャミロクワイに参加して以来、ありとあらゆるメーカーから「ぜひ使ってほしい」と、大量のアンプが送られてきたんだ。それをひとつひとつ試している時に、ボクのテクニシャンにアッシュダウンをすすめられて鳴らしてみたら、一発で気に入ってしまったんだ。

—どういった部分に一目ぼれしてしまったんですか？

ニック：とにかくシンプルなこと。ベースをつないでただで、細かい調整をせずに自分が気に入ったサウンドが得られるのは、アンプとしてのクオリティの高さを物語っていると思うんだ。どんな楽器でもそうだけど、演奏するのが楽しくなるものこそ、最高のものだよな。ボクにとってアッシュダウンは、まさにそういうアンプなんだ。

—サウンド的には、どういった点が気に入っていますか？

ニック：ファットでパンチがあるところだね。ジャミロクワイの曲のベース・ラインには、こういったアタック感のあるサウンドが必要なんだけど、このアンプは、まさにそうした要求に応えてくれるんだ。

—現在、使っているセットは、どういったものですか？

ニック：ABM500 PROのヘッドと、4×10インチと1×15インチのキャビネットというセットだね。外観的には、ボクの好みに合わせてメタル・グリルにしてももらったり、ブルー・ライン・スピーカーが見えるようにしてもらっているけど、アンプの中身は、店頭と並んでいるものとまったく同じものなんだ。

—あなただけのために作られたカスタム・メイド

トーン・ノブを極力少くしたシンプルなパネルと、レトロ感あふれるVUメーターが特徴のベース・アンプ“アッシュダウン”。その優れた機能性は、U2のアダム・クレイトン、ザ・フーのジョン・エントウィッスルといった、トップ・ベーシストたちから圧倒的な支持を得ていることからわかるだろう。そして今回、このアンプを愛用しているジャミロクワイのニック・ファイブが、最新モデルとともに来日した。そこで、ニックにアッシュダウンの魅力を聞いてみた。

のアンプではない、ということですね？

ニック：うん。一発聴いてそのサウンドを気に入ってしまったから、改造を加える必要性をまったく感じなかったんだ。もし改造が必要だと感じたら、他のメーカーのアンプを使っているよ(笑)。

—アンプで自分のサウンドを得ようとする時、どうやって調整するのがベストな方法だと思いますか？

ニック：まず、フラットな状態で音を出してみ、自分が必要とする部分を微調整していけばいいんじゃないかな。あと、アンプの特性を知るために、すべてのツマミの最低限と最大限の特性を知るとも大事だね。

—アッシュダウンは、ツマミ類の数も少なく、操作もカンタンそうですね。

ニック：ベーシストの間でよく言われるのは、「電源スイッチと音量ノブだけのアンプがあればいいの」ということなんだ。ボクも時間をかけて音を作っていくような作業は好きじゃない(笑)。だから、アッシュダウンは理想的だよ。もちろん細かく微調整することもできるけど、トーン・コントロールがシンプルなおぶん、それぞれの動きがいいんだ。

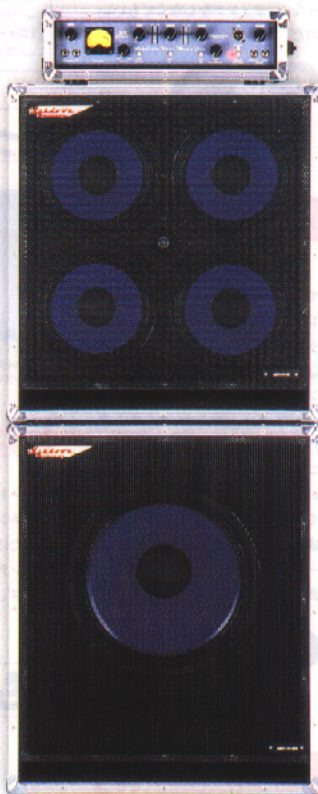
アッシュダウン・プロ・モデル ¥420,000

(ABM500 PRO・ABM-410H PRO・ABM-115-500 PROのセット価格)

ニックが愛用しているABM500 PRO(ヘッド・アンプ)とABM-410H PRO/ABM-115-500 PRO(スピーカー・キャビネット)にしたのが、このモデルだ。通常のモデルとの違いは、キャビネットがメタル・グリルになっている点だ。

ABM500 PROは、シンプルでコントロール・レイアウトながら、直感的なコントロールができる3バンドのEQに加え、180Hz/340Hz/1.3kHz/2.6kHz(±16dB)の4本のスライダーで、微妙な音質調整も可能となっている。また、低音に1オクターブ下の音をミックスできるサブ・ハーモニクス・コントロールを装備し、より強力なヘヴィ・サウンドが再生できる。

さらに、ソリッドステート・プリアンプとチューブ・プリアンプのサウンドをミックスする、インプット・ミックス・コントロール、印象的なVUメーターなども、アッシュダウンならではの特長と言えるだろう。



▲ニック使用のプロ・モデル

S P E C I F I C A T I O N

- ABM500 PRO ●出力：450W ●コントロール：インプット、インプット・ミックス、ベース、ミッド、トレブル、サブ・ハーモニクス、アウトプット、ロー・ミッド、ミッド、ハイ・ミッド、トレブル、アウトプット、アンプ・イン/アウト、ブライト・イン/アウト、EQイン/アウト ●入出力端子：ハイ、ロー、ライン、モジュラーセントラル・アクト、スピーカー・アクト、チューブ・プリアンプ・アクト、D/Aアクト ●スピーカー：アッシュダウン・ブルー・ライン 16インチ×1 ●外形寸法：473(W)×143(H)×335(D)mm ●重量：14kg
- ABM-410H PRO ●スピーカー：アッシュダウン・ブルー・ライン10インチ×4、カーン ●外形寸法：609(W)×671(H)×420(D)mm ●重量：39kg
- ABM-115-500 PRO ●スピーカー：アッシュダウン・ブルー・ライン15インチ×1 ●外形寸法：659(W)×735(H)×420(D)mm ●重量：33kg

アッシュダウンの魅力を凝縮した、最新コンポ・モデル

エレクトリック・ブルー 130-15 ¥70,000

アッシュダウンから、ついに小型のステージ・コンポ・アンプが発売された。低価格ながら、出力は130Wとステージでも充分なパワーで、5バンドのトーン・コントロール、拡がりのある低音感が得られるディープ・スイッチ、ダイレクトにミキサーに送ることができるバランスDIアウトなど、機能も

上級機種と変わらない。キャビネットがしっかりしているので、大音量で鳴らしても、クリアでまとまりのよい低音をキープしてくれる。ツマミ・タイプEQも、ポイントのつながりがよく、特別なエフェクターなどを使用しなくても、これ1台でベースの作りりはバッチリだ。



SPECIFICATION

- 出力：130W ●コントロール：インプット、ベース、ロー・ミッド、ミッド、ハイ・ミッド、トレブル、アウトプット、アンプ・イン/アウト、ブライト・イン/アウト、EQイン/アウト ●入出力端子：ハイ、ロー、ライン、モジュラーセントラル・アクト、スピーカー・アクト、チューブ・プリアンプ・アクト、D/Aアクト ●スピーカー：アッシュダウン・ブルー・ライン 16インチ×1 ●外形寸法：490(W)×600(H)×310(D)mm ●重量：18kg